

資源評価調査、資源管理基礎調査委託事業（海洋環境）  
日本海定線観測（要約）

今村豊・永峰文洋

目 的

青森県日本海海域における海況情報を収集し、漁業者等に提供する。

材料と方法

青森県の日本海定線において、試験船開運丸及び青鵬丸により7月と1月を除く各月1回、seabird社製CTD・911plusによる表層から最深1000mまでの水温と塩分の測定、採水による塩分、クロロフィルの測定、プランクトン、卵稚仔の採取を実施し、対馬暖流(日本海)の流勢指標について平年（1963～2014年平均値）と比較した。また、収集・分析した情報は、ウオダス漁海況速報や当研究所のホームページ等を通じて公表した。

結 果

観測結果を下表に示す。

0m層最高水温は、3～4月が「やや高い」、5～6月が「かなり高い」、9月が「かなり低い」、10月、12月が「やや低い」、2月、8月、11月が「平年並み」であった。50m層最高水温は、3月、5月が「やや高い」、4月、6月が「かなり高い」、9月、11～12月が「やや低い」、2月、8月、10月が「平年並み」であった。100m層最高水温は3月、5月、11月が「やや高い」、4月、6月、10月が「かなり高い」、2月、8～9月、12月が「平年並み」であった。対馬暖流の流幅を100m層5℃等温線の沿岸からの位置でみると、船作線では3月が「かなり狭い」、6月が「やや広い」、8～9月が「やや狭い」、10月が「かなり広い」、11月が「はなはだ広い」、2月、4～5月、12月が「平年並み」であった。十三線では2月、4月が「かなり狭い」、10月が「やや狭い」、11月が「はなはだ広い」、12月が「やや広い」、3月、5～6月、8～9月が「平年並み」であった。対馬暖流の水塊深度を7℃等温線の最深度でみると4～6月、10月が「やや深い」、12月が「かなり浅い」、2～3月、8～9月、11月が「平年並み」であった。対馬暖流の北上流量について水深300m層を無流量とした地衡流量でみると2月、4月、6月、9月が「やや多い」、5月が「かなり多い」、11月が「かなり少ない」、12月が「やや少ない」、3月、8月、10月が「平年並み」であった。船作線の東経138度20分～139度50分、水深0～300mの水温を積算した「断面積算水温」により対馬暖流の勢力を評価すると、3月は「かなり弱い」、4月、8～9月、11月は「やや弱い」、10月は「やや強い」、2月、5～6月、12月は「平年並み」であった

表 観測結果から算出した平年比（平年比%：平年偏差／標準偏差×100）

観測項目（平年比）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
各層最高水温（℃）	0m	—	+51	+99	+80	+154	+134	—	-25	-152	-119	-38	-93
	50m	—	+12	+98	+170	+96	+153	—	-28	-85	+48	-67	-78
	100m	—	+21	+81	+176	+112	+134	—	+28	-9	+199	+77	-52
流幅（マイル）	船作線	—	+5	-147	-51	+27	+77	—	-76	-72	+156	+247	-10
	十三線	—	-155	-14	-140	-59	+33	—	-40	+17	-75	+234	+99
水塊深度（m）	—	-5	-8	+79	+78	+83	—	-13	+59	+94	-36	-152	
北上流量（Sv. (10 <sup>6</sup> m <sup>3</sup> /s)）	—	+73	-21	+72	+141	+85	—	+25	+70	+36	-156	-106	
断面積算水温（℃）	—	-19	-167	-121	-1	+51	—	-67	-124	+123	-101	-45	
階級	平年並み	や	や	かなり	はなはだ								
平年比の範囲	±60%未満	±130%未満	±200%未満	±200%以上									

発表誌：平成27年度漁海況予報関係事業結果報告書 平成28年5月

平成27年度定線観測結果表 平成28年5月